



感覚の多様性と環境調整

視覚や聴覚、触覚などさまざまな刺激を捉える感覚は個人によって異なっており、近年ではそのような感覚の多様性を踏まえた施設の設置や商品の開発がされるようになりました。

多様な人材を育成する大学が、感覚多様性に対しどのような支援や空間デザインができるのかについて、理解を深めながら考える機会とします。

日時 2026年3月13日 (Fri) 11:00～16:20 **定員** 150名

会場 大阪大学 箕面キャンパス1階大講義室＆記念ホール
〒562-8678 箕面市船場東 3-5-10 (定員 150名)

ATライブラリー (箕面キャンパス1階 記念ホール 11:00～13:00)

感覚特性をサポートする支援機器 (Assistive Technology : AT) の展示を行います。



感覚特性は一人ひとり異なり、その特性に合った支援と環境調整が大事です。ATライブラリーでは、感覚過敏・感覚鈍麻などをある方が実際に使っている支援機器を展示・体験いただけます。これらの機器を通じて、社会的な障壁がどのように軽減され、日常生活や学びが支えられているかを、ぜひ実感してみてください。

シンポジウム (箕面キャンパス1階 大講義室 受付：12:00 開演：13:00 終了 16:20)

13:00～ 挨拶

13:10～ 第一部 基調講演 「大学生と感覚多様性－心理・生理」
講師 井手 正和先生 (国立障害者リハビリテーションセンター)

14:30～ 第二部 パネルディスカッション

「感覚特性のある学生への支援を共に考える」 松島 佳苗先生 (関西医科大学)
「感覚多様性と空間デザイン」 羽野 晓先生 (九州大学)

15:50～ フロアとの意見交換



井手 正和先生 松島 佳苗先生 羽野 晓先生

16:20～ 閉会

申込 本シンポジウムにご関心のある方は、学内外問わざご参加いただけます。
QRコード・URLよりお申し込みください。



申込フォーム：<https://forms.office.com/r/NDCsZbYGjq>

〆切 2026年3月2日 (月) 17時

※本シンポジウムでは、手話通訳および文字通訳がれます。

参加に際し、その他の調整が必要な方は、2月13日 (金)までにご連絡ください。

〈QRコード〉



障がいの理解を高めるシンポジウムⅤ

感覚の多様性と環境調整

障がい学生支援を大学のみならず社会全体の課題と捉え、学生を支えるすべての関係者の障がいへの理解を深めていくことを目的とした「障がいの理解を深めるシンポジウム」も5回目となりました。今回は、目に見えづらいバリアに焦点をあて、「感覚の多様性と環境調整」をテーマに開催します。

視覚や聴覚、触覚などさまざまな刺激を捉える感覚は個人によって異なっており、近年ではそのような感覚の多様性を踏まえた施設の設置や商品の開発がされるようになりました。本シンポジウムでは、感覚の多様性に関する基本的な知識をふまえ、多様な人材を育成する大学が、感覚多様性に対しどのような支援や空間デザインができるのかについて、理解を深めながら考える機会とします。さらに今回は、感覚特性によって生じる修学・生活上の困難をサポートする機器を集めた AT ライブラリーも開催します。

日 時：2026年3月13日（金）

AT ライブラリー 11:00-13:00 シンポジウム 13:00-16:20（受付開始 12:00-）

会 場：大阪大学 算面キャンパス 1F

AT ライブラリー 記念ホール シンポジウム 大講義室

〒562-0035 大阪府箕面市船場東 3-5-10

アクセスマップ：<https://www.sfs.osaka-u.ac.jp/access.html>

対 象：学内外関係なく、ご関心のある方はどなたでも参加できます（**参加費無料・要申込**）

※AT ライブラリーへの参加は申し込み不要です。

申込方法：以下の URL または右に記載の QR コードのフォームからお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/NDCsZbYGjq>



定 員：150名（現地開催のみ）

〆 切：2026年3月2日（月）17時まで。

※本シンポジウムでは、手話通訳および文字通訳がつきます。

障害等の理由により、その他の調整が必要な方は、2月13日（金）までにご連絡ください。

問合せ先：

大阪大学 キャンパスライフ健康支援・相談センター 相談支援部門（担当：安永・永井）

Tel & Fax : 06-6850-6107 E-mail : info@hacc.osaka-u.ac.jp

詳細は当室 HP にも掲載しています→ <https://acs.hacc.osaka-u.ac.jp/>

〈登壇者紹介〉

●井手 正和（イデ マサカズ）第一部講演 講師

国立障害者リハビリテーションセンター 研究所 脳機能系障害研究部 研究員

〈経歴〉 立教大学大学院現代心理学研究科博士課程後期課程修了。博士（心理学）。国立障害者リハビリテーションセンター研究所脳機能系障害研究部流動研究員、日本学術振興会特別研究員PDなどを経て、現職。専門は実験心理学、認知神経科学。2014年度よりASD者を対象とした知覚の研究を開始し、MRIによる非侵襲脳機能計測手法を取り入れることでその神経基盤の解明を目指している。主な著書に「科学から理解する 自閉スペクトラム症の感覚世界」（金子書房, 2022）、「発達障害の人には世界がどう見えるのか」（SBクリエイティブ, 2022）など。

●松島 佳苗（マツシマ カナエ）第二部パネルディスカッション パネリスト

関西医科大学 大学院生涯健康科学研究科/リハビリテーション学部 准教授

〈経歴〉 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修了。博士（人間健康科学）。

作業療法士/公認心理師 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻（助教）、関西医科大学医学部リハビリテーション医学講座/リハビリテーション学部設置準備室（講師）などを経て、現職。主な著書に、「エビデンスでひととく発達障害作業療法-神経発達症の理解と支援-」（編著、シービーアール, 2021）、「人間発達学」（編著、医学書院, 2025）。

●羽野 晓（ハノ サトシ） 第二部パネルディスカッション パネリスト

九州大学 大学院 芸術工学研究院 准教授

〈経歴〉 インクルーシブインフラの実践を進める九州大学らくちんラボを運営。九州大学大学院修了。博士（工学）。建設技術研究所、第一工業大学講師、九州大学キャンパスライフ・健康支援センター特任准教授などを経て現職。土木学会デザイン賞、キッズデザイン協議会会長賞、日本サインデザイン賞など。

